

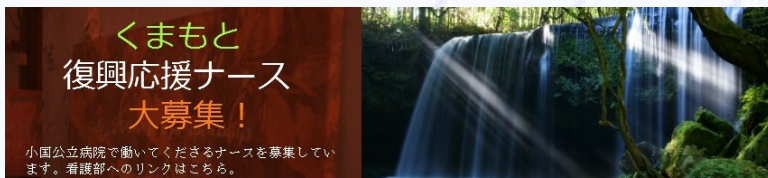
ゆたあ〜と

小国郷の看護師不足を補う「くまもと復興応援ナース」制度

総看護師長 波多野智子

平成28年4月の熊本地震において、熊本県は甚大な被害を受けました。その中で、阿蘇地域は、基幹道路が寸断され、現在復旧に向けて工事が進められています。整備には数年を要する現状です。その為、通勤に大きな負担が生じている阿蘇地域の医療機関では、看護職員の離職が相次ぎ、看護職の人員確保が困難な状況に陥りました。

そこで、「熊本県」と「公益社団法人 熊本県看護協会」とで、阿蘇地域を対象とした短期間での就労も可能な支援を行う看護職員『くまもと復興応援ナース』を確保する事を目的として、平成29年5月15日に覚書の締結しました。

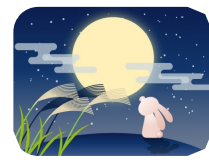


くまもと復興応援ナース 大募集!

小国公立病院で働いてくださるナースを募集しています。看護部へのリンクはこちら。

発行
小国公立病院
0967-46-3111
おぐに老人保健施設
0967-46-6111
訪問看護ステーション
0967-46-6050

9月号
平成29年9月1日



12名が阿蘇の6病院で勤務されています。当院でも2人の復興応援ナースの方に応援を戴いています。おひとりは、熊本市内からお見えで、外科病棟に勤務されており、3〜6ヶ月を予定しています。おひとりは、長崎県から夏休みを利用して外来勤務をされていました。

『くまもと復興応援ナース』は、これから2年間の期間限定ではありますが、皆様には阿蘇の大自然と温泉、おいしい食べ物を満喫して戴きながら、お仕事での応援もお願いして、今の看護師不足を乗り越えたいと考えています。中には、永住しても良いという方が現れる可能性も期待出来ると考えますので、皆様、どうぞ温かく見守ってください。宜しくお願い致します。

また、復興応援ナースとは別に、連携病院からの看護師派遣で支援を頂いています。この支援については次号で紹介いたします。

くまもと復興応援ナースよりごあいさつ

佐々尚美さまなおみと申します。7月よりくまもと復興応援ナースとして、2階病棟で働いております。

小国公立病院に来て最初に感じたことは、患者様と医療者の距離が近く、挨拶や言葉かけが、家族みたくにあなたかという事です。地域に根ざした病院を実践されていると肌で感じます。そのような中で、私も患者様やスタッフにあなたか迎入れて頂き、小国ライフを満喫しております。ありがとうございます。

応援ナースとは名ばかりで、教えていただく事の多い毎日ですが、職員の皆様の長年培われてきた患者様との信頼関係を壊さないように、また、スタッフの皆様が二日でもお休みがとれた」と言ってもらえるように、頑張ります。短い期間ですが、どうぞ宜しくお願いいたします。

仕組みとしては、熊本県ナースセンターが窓口となり、未就業看護職から「くまもと復興応援ナース」を発掘しようと、新聞やテレビ、ホームページを通じて全国に情報発信を行い、全国から登録された看護職は、ナースセンターの就業支援アドバイザーを通じて、希望施設や条件等を求職者と確認し、その後、希望医療機関へ紹介され、派遣するという仕組みです。

一方、阿蘇地域の医療機関では、住居の確保や生活用品の準備、着任に伴う旅費や送迎などの協議、阿蘇地域での生活を楽しんで頂くための特典などを検討し、受入体制を整えようと共に、各機関において、自施設のホームページ上のPRの見直しなども行いました。

7月現在、応募数55名、登録者31名、そのうち

副院長 片岡恵一郎

「ホンネで井戸端会議」という試み

小国公立病院は、いつも何らかの問題を抱えております。人が長く生きてくると、みんな何らかの病気が出てくる事とちょっと似ているかもしれません。

問題の発端や原因は何なのか、解決策はあるのか、管理者と呼ばれるポジションのスタッフで話し合う会議はいつか以前からありました。管理者の発言や行動は、病院を大きく動かす力がある為、自ずと重い責任が伴うものです。少なくとも公的な場で、軽はずみな発言は許されません。

もっとホンネで病院の未来を議論し、もっと自由に病院の未来を発想したい、という現場のスタッフの言葉を多く耳にしていました。「管理者にはできない議論をもっとホンネで自由に。」そういう会を開こう、ということが運営会議で決定し、6月19日に第1回目が開催されました。

1回目のテーマは「看護師不足について考える」としました。

病院・老健スタッフのうち参加希望有志が集うという形をとったところ、28名が参加しました。

参加者を4グループに分けて、それぞれの班で自由な発想で看護師不足の原因とそれに対する解決策を話し合ってもらいました。お茶とお菓子付きの会議というのがちょっとしたポイント。

ワークショップのいいところは、他人の意見に触発され、1人で考えても出てこない様な発想が湧き出てくること。沢山の意見やアイデアが発表されましたが、かなり大まかに要約すると、1)教育システム・スキルアップ 2)賃金 3)休暇 4)仕事の評価、の4つが新規看護師雇用のポイントになるのではないかと、という議論になりました。

どこにでもでてくる様な、これらの当たり前の項目が新規看護師雇用のポイントとスタッフが思っているということは、裏返すと、これらの項目が満足できるレベルに達していないとも言えるかもしれません。これらを他の地域の病院と比較して遜色ないレベルに整える事が、他の地域からの新規雇用を得る必要条件であるという結論が導き出されました。

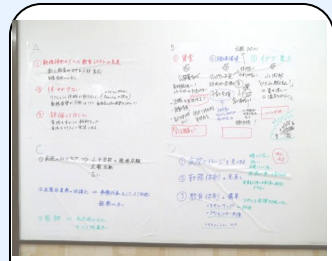
今後も、様々なテーマで「ホンネで井戸端会議」を行っていく事が、小国公立病院の問題点に対する処方箋となっていく事を願っています。



② 意見をまとめる



③ まとまった意見を発表



④ 全体の意見をまとめ、参加者全員で井戸端会議



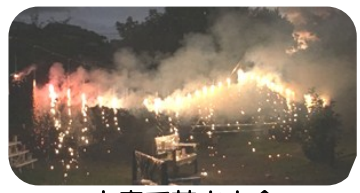
① 各グループで話し合う



まる & まさみ
参上!!!



夏祭り 2017



中庭で花火大会

8月4日金曜日に、毎年恒例の「おぐに老人保健施設 夏祭り」が開催されました。今年は、人手不足の余波を受け、開催が危ぶまれましたが、病院スタッフの方がボランティアで、祭りをサポートして頂いたため、無事に開催することが出来ました。

今年の祭りの1番の目玉は、『まる & まさみ 猿回しショー』でした。

まる & まさみのコンビは、阿蘇市を

拠点に、九州内や山口県の様々な場所で活躍されています。そして、まる君はお猿さんの中でも、色白でイケメンという噂でしたが、噂通りのイケメンで、老健という初めての場所でも、一生懸命に演じて、その場にいたみんなを笑いに包み、大盛況でした。



まるだよ〜!!

また、最後のプログラムの花火は、今まで駐車場で行ってきましたが中庭で行い、施設内から皆で観覧しました。大きな花火は上がりませんでしたが、ゆっくり花火を観覧することができ、大切な人と一緒に観たかったと思われる方や、いつものメンバーでワイワイとみられた方や、それぞれで懐かしんだり、感動したりされたひとときでした。

食事の方は、特に焼きそばが美味しかったと大好評でした。

食材の準備をしてくださった九州フードサービスの皆様です



わぁ〜美味しそう〜



スタッフ奮闘中!!

このように夏祭りが素敵な思い出になったのも、参加して頂いた方や、手伝って頂いた病院ボランティアの方々のおかげです。改めてありがとうございました。

祭 祭 祭

ありがとうございました



〜スタッフ一同〜

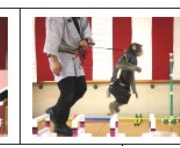


夏まつり実行委員長



佐藤 直美

ボク、頑張ったよっ。



職員川柳

詠み人 あんよ



再会に

心でつづやく「ただいま」と
変わらぬ笑顔 止まらぬ会話

杉山に 邪魔され見えぬ 大花火

音のみ楽しむ 我が家のお盆



次回 平成29年11月1日
発行予定です。
お楽しみに!!

新任看護師・支援医師のご紹介



(よしざき あやこ)
吉寄 綾子看護師
3階病棟勤務

熊本医療センターから来ました、看護師の吉寄です。8月より3階病棟と一緒に働かせて頂きます。小国には、たくさんの温泉やおいしい食べ物があると聞いています。小国での生活を楽しくしていきたいと思ひます。ご迷惑をおかけすることもあると思ひますが、宜しくお願いします。



(おりた よりひさ)
折田 頼尚 先生
診察日：耳鼻咽喉科
毎週金曜日

本年6月16日から熊本大学に着任しまして、こちらにも主として金曜日にお邪魔しております。生まれも育ちも岡山県ですので、まだこちらの言葉に慣れておりませんで、聞き返したりすることもあるかと思ひますが、少しでも皆様のお役に立てる様に努力所存ですので、どうか宜しくお願いします。



(いのうえ よしたか)
井上 明威 先生
診察日：総合診療科
第1・3木曜日

熊本大学医学部附属病院 血液内科より伺っております、井上明威と申します。熊本市出身で、平成19年久留米大学を卒業、その後福岡ドーム前にある九州医療センターで初期研修を行いました。平成21年4月に熊本大学医学部 血液内科に入局し、平成22年4月から東京の国立がん研究センター中央病院で5年間研修を行いました。平成27年4月より熊本大学に戻り、現在は悪性リンパ腫および造血細胞移植を主に担当しています。学生時代より阿蘇・小国にはよく遊びに来ており、大好きな土地の一つです。これからも地域の皆様に貢献出来るように頑張っていきたいと思いますので、どうぞ宜しくお願いいたします。



(きむら ゆきこ)
木村 由紀子 先生
診察日：総合診療科
第2・4・5木曜日

総合診療科、血液内科を担当している木村由紀子です。出身は熊本で、血液内科に入局し、8年目になります。現在は大学院生として普段は実験をしながら、小国公立病院の外来を担当させていただいています。実説では、3歳と5歳の子供と慌ただしい毎日を送っています。小国の方々は皆さん優しく、小国での外来がとても楽しみです。少しでも皆様のお役にたてればと思ひます。どうぞ宜しくお願いします。

